

登録コード:MH3A3200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	運動療法基礎論【25M以降】 Therapeutic Exercise		
担当教員	西澤 公美 小宅 一彰・中村 慶佑		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻/2年 後期(前半) 水曜・1時限 水曜・2時限		
単位数、講義室	1単位	保健学科運動療法実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標
	MH25カリ・保健・理学		
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		理学療法士に必要な運動療法の理論と実践に関する専門的な知識を修得し、対象者の疾患特性、障害特性、残存機能、心理社会的特性に応じた理学療法評価・治療・指導において活用することができる。
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		社会で派生する多様な健康問題に対して、理学療法士としての視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に対応していく探究心と、対象者の課題に応じた安全で効果的な運動療法に向けて取り組む力が身についている。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業は、講義とグループワークを通して、理学療法の臨床実践における基本的な進め方を設計する上で鍵となる運動療法の理論や実際について学修します。本授業は、2年次後期の「運動学習理論」、「臨床神経学」などの内容と相補的に学んでいくこととなります。そして、本授業の内容は、3年次に学ぶ疾患別の理学療法、治療法実習、ならびに、4年次の臨床実習における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医療機関における理学療法士としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	第1回(9月30日)運動療法総論 : 定義・運動療法の種類 (西澤) 運動療法総論 : 意思決定・患者モデル 第2回(10月7日)疾病予防・健康の増進と維持 (西澤) 小テスト(第1回, 第2回の範囲) 第3回(10月21日)バランス能力改善のための運動療法 (西澤) バランス能力改善のための運動療法 第4回(10月28日)呼吸, 循環, 有酸素運動 (中村) 呼吸, 循環, 有酸素運動 第5回(11月4日)関節・筋機能の障害, 改善 (小宅) 関節・筋機能の障害, 改善 第6回(11月11日)グループワーク (西澤, 小宅, 中村) 第7回(11月18日)グループワーク発表 (西澤, 小宅, 中村) 第8回(11月25日)期末試験 (西澤)		
授業の進め方	本授業は、パワーポイントスライド、テキスト、そして、板書に基づいた講義と、学生同士のグループワークに基づいて進めていきますが、受講生の皆さんの能動学習による理解の深化を促すため、授業中の質疑応答にも重きを置いて展開していきます。とくに大切な点は、予習(事前学習)・復習(事後学習)を通して能動的に学んだ内容を整理して、論理的に分かりやすく他者に伝えるという行為を反復することによって、運動療法の理論や実際のアプローチの実際についての理解を深めるとい点です。そのため、授業の中では、皆さんが能動的に学んだ事前学習の成果についての質問を行います。このような質疑応答の反復、小テスト、グループワーク、期末試験を通して、「授業の達成目標」に到達することができるよう意欲的に能動学習に取り組んでください。また、授業の最中でも、不明な点があれば、積極的に質問することによって、自身の疑問を解決するように努めてください。		
テキスト, 教材, 参考書	テキスト キャロリン・キスナー (著), リン・アラン・コルビー (著), 黒澤 和生 (監修), 川島 由紀子 (翻訳): 最新運動療法大全 第6版 I 基礎編 ガイアブックス, 第6版 (2016/11/25) 参考書:		
成績評価の方法	授業開始時の小テスト・グループワーク・期末試験の結果に基づいて、総合的に成績を評価します。総合的評価の配分は、小テスト20%、グループワーク40%、期末テスト40%とし、総計の60%以上の得点を合格とします。「小テスト」は、予習もしくは復習による学修到達度を確認するために授業開始時に行います。「グループワーク」は、事前にテーマを伝えますので、情報収集と討論を行い、パワーポイントスライドを用いて発表してもらいます。評価の観点は、発表内容の適切さ、資料の分かりやすさ、議論の深さ、質疑応答の内容などを指標とし、総合的に評価します。期末試験では、理学療法の運動療法における理論や具体的な実践方法についての理解度を確認します。		

成績評価の基準	中間試験および期末試験による成績評価の判定基準は、下記の通りとします。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可 60点未満：不可 これらの採点の基準は、達成目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における最低限の解答内容であれば「水準にある（可）」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある（良）」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある（優）」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している（優）」と判定します。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 毎回、授業の終わりに、次回までに調べてくるべき予習（事前学習）内容について説明を行います。 【事後学習について】 毎回、授業の初めに、前回の授業の要点について復習（事後学習）してきた内容や、能動学習として学んできた内容についての質問を行いますので、自分の言葉で端的に分かりやすく説明できるように準備して授業に臨んでください。 本授業の単位修得には、21時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間14時間（2時間×7回）＋ 事前・事後の自己学習時間7時間（1時間×7回）＝21時間 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	運動療法基礎論は、理学療法の臨床実践にとって大変重要な基礎知識です。予習（事前学習）、復習（事後学習）に関する能動学習を通じて基本的な知識を修得して、将来の理学療法士としての臨床活動に役立てられるよう意欲的に取り組んでください。 質問への対応：西澤公美 hitnishi@shinshu-u.ac.jp 小宅一彰 k_oyake@shinshu-u.ac.jp 中村慶佑 keipons08@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前にメールで希望日時についてご連絡ください）保健学科南校舎4階 西澤公美研究室，小宅一彰研究室，助教・助手研究室（理学）